

とてまか^{ほ け きょう}くても法華經
 を強^しいて説^とき聞^きかすべし。
 信^{しん}ぜん人^{ひと}は仏^{ほとけ}になるべし。
 謗^{ぼう}ぜん者^{もの}は毒^{どく}鼓^くの縁^{えん}と
 な^{ほとけ}って仏^{ほとけ}になるべきなり。
 いかに^{ほとけ}としても、仏^{ほとけ}の種^{たね}
 は法華經^{ほ け きょう}より外^{ほか}になきなり。

(御書新版697ページ・御書全集552ページ)

通解

とにもかくにも法華經を強^しいて説き聞かせるべきである。
 信じる人は仏になる。謗る者^{そし}
 は毒鼓の縁^{どく ぐ えん}とな^{ほとけ}って仏になる
 のである。どちらにしても、
 仏になる種^{ほか}は法華經より他^{ほか}に
 ないのである。

友情を深める秋に

よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 気付けば今年も残り3カ月。今月も一緒に御書を学んでいこう！

今回学ぶ「法華初心成仏抄」は、1277年（建
 治3年）に身延^{みのぶ}で著^あされましたが、誰に与えられた
 お手紙なのか、詳細は不明です。

本抄は、問答形式によってさまざまな宗教の正邪^{せいじゃ}
 を論じられた上で、“南無妙法蓮華經を唱^{ひる}え、弘^{ひろ}め
 ていくことが最も重要である”と説かれています。
 そして、末法に法華經を持ち、弘める人は、必ず
 迫害^{はくがい}に遭うことを明かされ、難^{なん}を恐れず、信心^{おそ}を貫^{つらぬ}
 くよう、励ましを送ります。

御文に出てくる「毒鼓^{どく ぐ}」とは“毒^めを塗^{たい}った太鼓^こ”
 のこと。その音を耳にした人は、たとえ聞^きくつもり
 がなくても、死んでしまうという言い伝えがあるん
 だ。ここでいう“死”とは、“悩みや苦しみがなく
 なる”ことのたとえだよ。つまり、どんな人であっ
 ても、正法を耳にすれば必ず幸せになると教えてい
 るんだ。

大聖人が、「法華經を説き聞かせていきなさい」と
 教えられている点は、未来部の私たちにとっては
 自分の振る舞いを通して伝えていくことに当たるん
 じゃないかな。

それは例えば、悩んでいる友達に寄り添ったり、
 部活動で失敗した仲間に励ましの言葉をかけたりす
 ること。“失敗を恐れずに挑戦を続けてほしい”“悩
 みを乗り越えて元気になってほしい”と、友達のこ
 とを祈り、行動する中で、友情が深まり、信頼関係
 を築くことができるよね。その実践が、幸福になる「仏
 の種」をま^くく第一歩につながるよ。

池田先生はつづっています。

「どこまでも人間対人間として、友情を結び合っ
 ていく——その行動の人こそ、真^{しん}の世界市民です。こ
 の日蓮仏法の精神のままに、誠実^{いちじろ}一路で、世界中に
 友情を広げてきたのが、創価^{こうが}の師弟^{しだい}です」

信心根本^{こんぽん}に、朗らかな日々を過ごしなが^{ほが}ら、縁^{えん}し
 ている友達、これからできる友達と、友情を深める
 秋にしよう！